

トバ  
日以来  
券、日  
保裕  
の新監  
長。



栃木県上三川町の  
レンタカー内で見  
つかった遺体の身  
元は、千葉県柏市  
の高校1年生の女子  
生徒と判明した。

| 迫る | つながる | たのしむ | 気になる |

# 小児がん救う娘の遺志



2018年7月29日、志村一也撮影

迎えた18年7月29日の朝、千歳さんは発熱した。参加を決めていたレモネードスタンドの日。友子さんは諦めるよう何度も説得したが、千歳さんはかたくなに「行く」と訴えた。「私は病気の子の気持ちが分かるから、少しでも役に立ちたい」。輸血を受け、医師の許可を得て、家族4人で会場に向かった。この日の福岡市内は、東から西へ異例の進路をたどる「逆走台風」の接近で、灰色の雲が空を覆い、時折激しい雨が地面を打った。千歳さんは麦わら帽をかぶり、「レモネードはいかがですか」「募金お願いします」「小児がんの子どもたちのために使われます」。抗がん剤治療で髪が抜けた千歳さんは涙を拭いていた。

亡くなる8日前、発熱しながらもレモネードスタンドに参加した添田千歳さん(手前右から3人目)。姉の夏妃さん(同右端)、母の友子さん(同右から2人目)、父の晃さん(左)とともに、小児がん治療への支援を求めた。福岡市博多区の博多駅前で2018年7月29日、志村一也撮影



迫る

## 7歳亡くした母の闘い

千歳さんが最期まで諦めなかつたある思いを継ぐためだ。

千歳さんの人生は、再発路地に、1軒の駄菓子屋がある。約1年9ヶ月前に才一品した店は白い内装で、安価な菓子や玩具が整然と並び、訪れた子どもたちの笑い声が響く。

店内の楽しそうな様子を見守るように、頬づえをつき、ほほ笑む少女の写真が飾られている。2018年8月に急性リンパ性白血病で7歳の命を閉じた添田千歳さん。その名前を付けた「ハンドメイドとだがしの家」とせや」を母の友子さん(46)が開いたのは、千

千歳さんは17年にも福岡駅前で参加したことがある。18年の手帳の「7月29日」に「レモネードスタン

ばれる活動は、小児がんの一種「神経芽腫」を患った米国の少女、アレックス・スコットさんが00年、小兒

がんの治療資金を集めようと、レモネードを一杯

50円で自家の庭で売り始めたのがきっかけだ。04年6月12日には全米50州で一斉に開催。約2ヶ月後にアレックスさんは8歳で亡くなってしまった。打つべき手術を18年3月に受けた。手術後、千歳さんは通院治療の結果、16年8月に白血病細胞は確認できなくな

り、治療を終えた。17年4月に小学校に入る。校庭で一輪車に乗り、校内を歩き回る「探検ごっこ」のリーダー的存在にな

た。

日本でも年間約2000人が小児がんを発症し、小さな体で病と闘つ。レモネードスタンドは00年代後半から日本でも催されるようになり、患者支援の代表的取り組みになっている。

世界で広まった。

日本でも年間約2000人が小児がんを発症し、小さな体で病と闘つ。レモネードスタンドは00年代後半から日本でも催されるようになり、患者支援の代表的取り組みになっている。

世界で広ま

った。

日本でも年間約2000人が小児がんを発症し、小さな体で病と闘つ。レモネードスタンドは00年代後半から日本でも催されるようになり、患者支援の代表的取り組みになっている。

世界で広ま

った。

日本でも年間約2000人が小児がんを発症し、小さな体で病と闘つ。レモネードスタンドは00年代後半から日本でも催されるようになり、患者支援の代表的取り組みになっている。

## 苦しい治療 耐えた末

を振り絞った。道行く人が足止め、千歳さんが抱えた募金箱に浄財を入れてくれた。千歳さんはこの日のことを絵日記に描いた。自身と姉の夏妃さん(16)が並んで立った絵、そして「レモネードスタンドのお手つだいしたよ」と記した。その後、容体が急変し、酸素濃度が著しく低下した。医師が友子さんと父の晃さん(47)に切り出した。「もう1週間も持まません」

友子さんは涙が止まらない。立ちはだかりで看病してきた娘が遠くへと旅立ち、友子さんは涙を拭いていた。千歳さんは涙を拭いてきたのに何で……。病室に戻ると千歳さんは「ママ、何で泣いとー」と言つて笑つた。だが、段々と口数は減り、やがて声を發さなくなつた。

「ありがとう」「ごめん

」

3面につづく